

青学大の山、越えられず

写真 橋本圭史、
山田遼太郎、
文 袴田麻友

2回戦
10年春季リーグ
第3週・4月20日
0勝2敗

駒大O-3青学大



三振を喫し渋い表情を見せる主将・笠間

打線封じられ連敗



ダメ押しの本塁打を浴び悔しがる白崎勇

駒大	000	000	000	0
青学大	011	010	00x	3

【駒大】	打安点
⑥岡	410
④赤木	200
PH柴田	100
③笠間	200
⑨山本	300
DH北原	210
RD藤原	000
②上村新	212
2戸柱	100
⑦谷口	300
⑤白崎浩	300
⑧中谷	200
PH小林	100

計 2620

▽二塁打=北畠

	回	打安責
●井口	3	1342
小倉	0 1/3	200
白崎勇	4 2/3	1841

◆北畠俊也【きたばたけ しゅんや】
1988年9月22日生まれ/捕手/右投
左打/180cm 82kg/佼成学園高出身/
経済学部経済学科在籍

青学大に先勝を許し、連敗は避けたい駒大。だが、2回に先制されると、3、5回にも大技小技で点を取られる。前戦に続き、貧打がたたり、投手陣を援護できず。連敗を喫し、勝ち点を落とす。

2戦目の先発は、専大戦でリーグ戦初登板、初勝利を飾った井口拓皓(経2)。先発の重圧を受け流し、「勝ってヒーローに」と勇む。

初回、3球で打ち取り、流れを呼び込むと、打線は1死から北畠俊也(経4)が二塁打を放つ。続く上村新(営4)は打ち取られるが、2死三塁。ここで「絶対打ってやろう」と、谷口飛翔(法3)が打席に入る。だが、凡退に終わり、悔しげな表情。この好機をものにできず、直後には井口がつかまり先制を許す。

「もう僕しかいないと思っていた」と白崎勇(営3)がマウンドへ。前戦は6回をもたず降板しやりきれない表情を見せたが、今回は粘りの投球。5回に本塁打を浴び、差を広げられるが他のピンチで踏ん張った。それだけに、四死球で出塁すれば併殺に終わり、2安打に抑えられた打線が敗因として浮き彫りとなった。

開幕カードでは大暴れし、この試合も邪飛などしぶとく食らいついた笠間将裕(商4)からは「ピッチャーが粘ってくれたのに野手がついていけないので粘って粘って点を取りたかった。ピッチャーには本場に申し訳なかった」と後悔の言葉が出て出た。

青学大の連勝を止められず、他大の結果も窺いながら戦わなければならなかった。優勝に向け、以後全カードで勝ち越しが必須だ。5月に入りリーグ後半戦へ突入。次は過去3季6連勝と相性の良い拓大戦。確実に勝ちを狙う。

PICK UP★



北畠俊也

青学大2回戦、わずかに2安打に抑えられた中で、唯一の長打を放った北畠。この試合では初のスタメン出場ということで、「緊張した」と言うが、1打席目の二塁打でその緊張は吹き飛んだ。今春卒業した前原一慶(現JFE西日本)の背番号25を受け継ぎ、「長打が売りの選手がつける番号。自分も長打が売りなのでそこを大事にしていきたい」と、その重みをかみ締めている。

「自分が試合に出て結果が出なくても、自分がいる事で雰囲気は良くなってくれれば」と謙虚さの出る一面も。「普段通りやれば負けたくない」と次戦への自信を口にした背番号25。ラストイヤーを迎え、この男には1部昇格しか見えていない。